

「地域循環共生圏セミナー2025」

第2回 福祉 × 環境

地域資源を活用した、暮らしをより良くするための共助のあり方

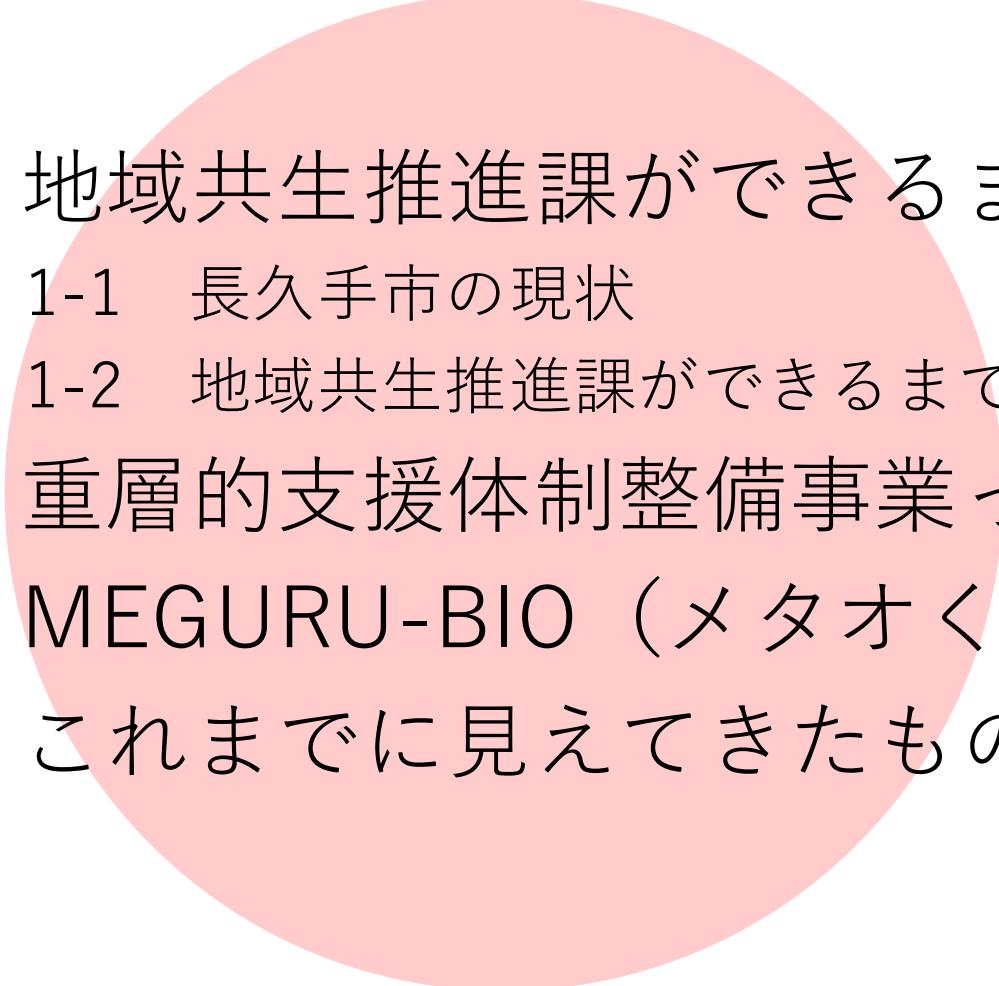
地域でつながるということ

令和7年12月9日

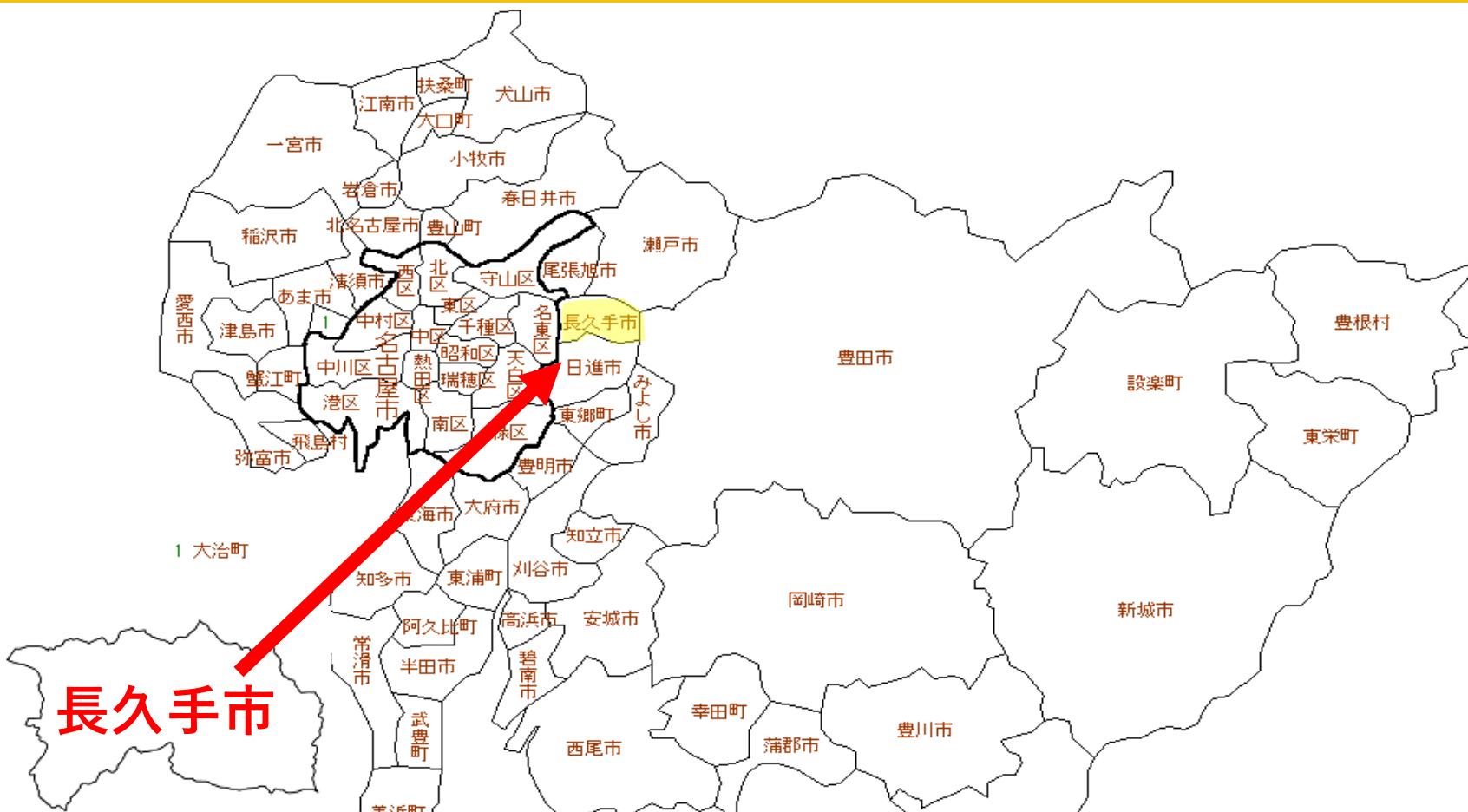
長久手市地域共生推進課

課長 熊谷美恵

今日おはなししたいこと

- 
- 1 地域共生推進課ができるまで
 - 1-1 長久手市の現状
 - 1-2 地域共生推進課ができるまで
 - 2 重層的支援体制整備事業って？
 - 3 MEGURU-BIO（メタオくん）
 - 4 これまでに見えてきたもの

1-1 長久手市の概要①（地理・人口）

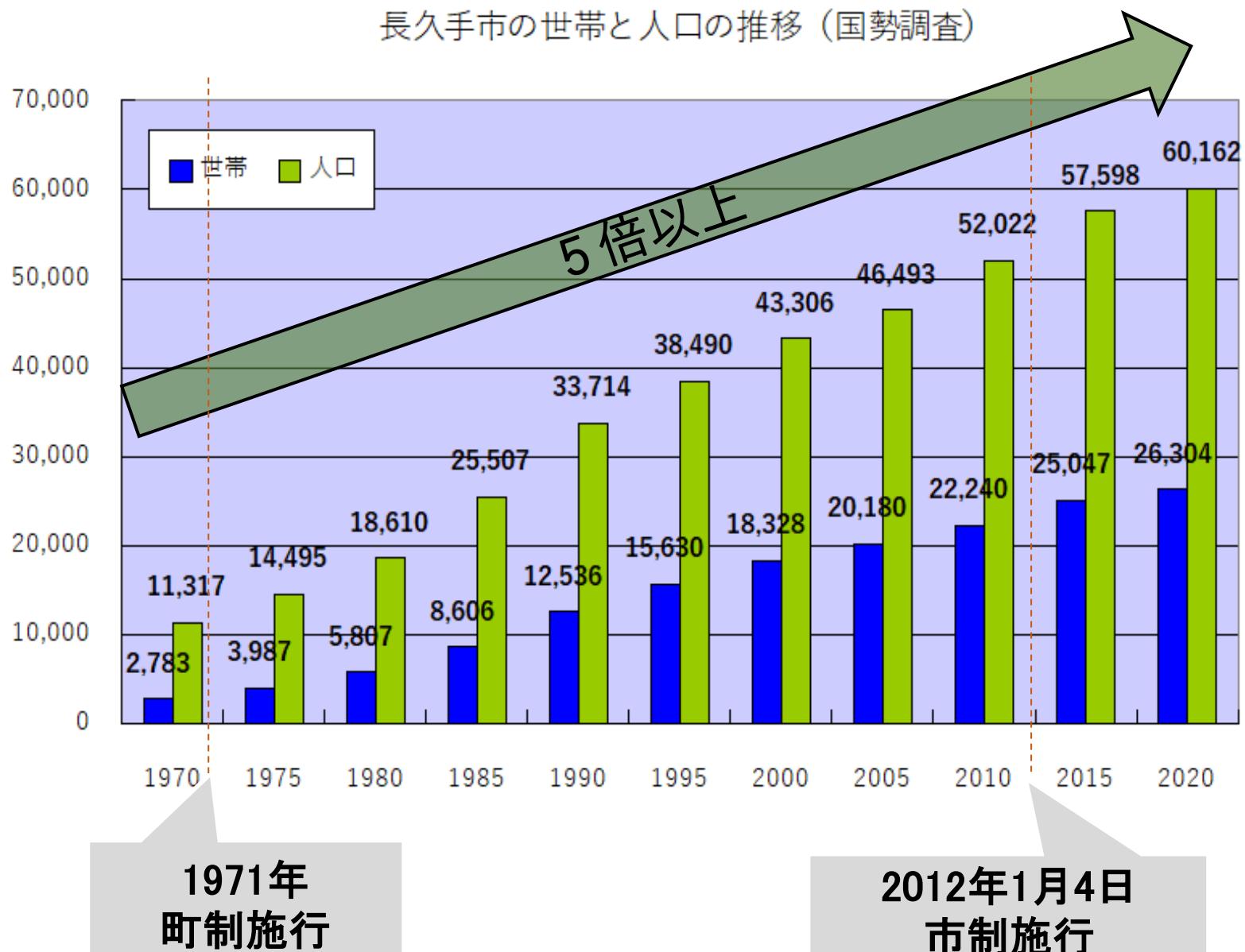


- 面 積
- 人 口
- 世帯数

21.55km² (東西約8km、南北約4km)
61,665人
26,477世帯

※令和7年11月1日現在

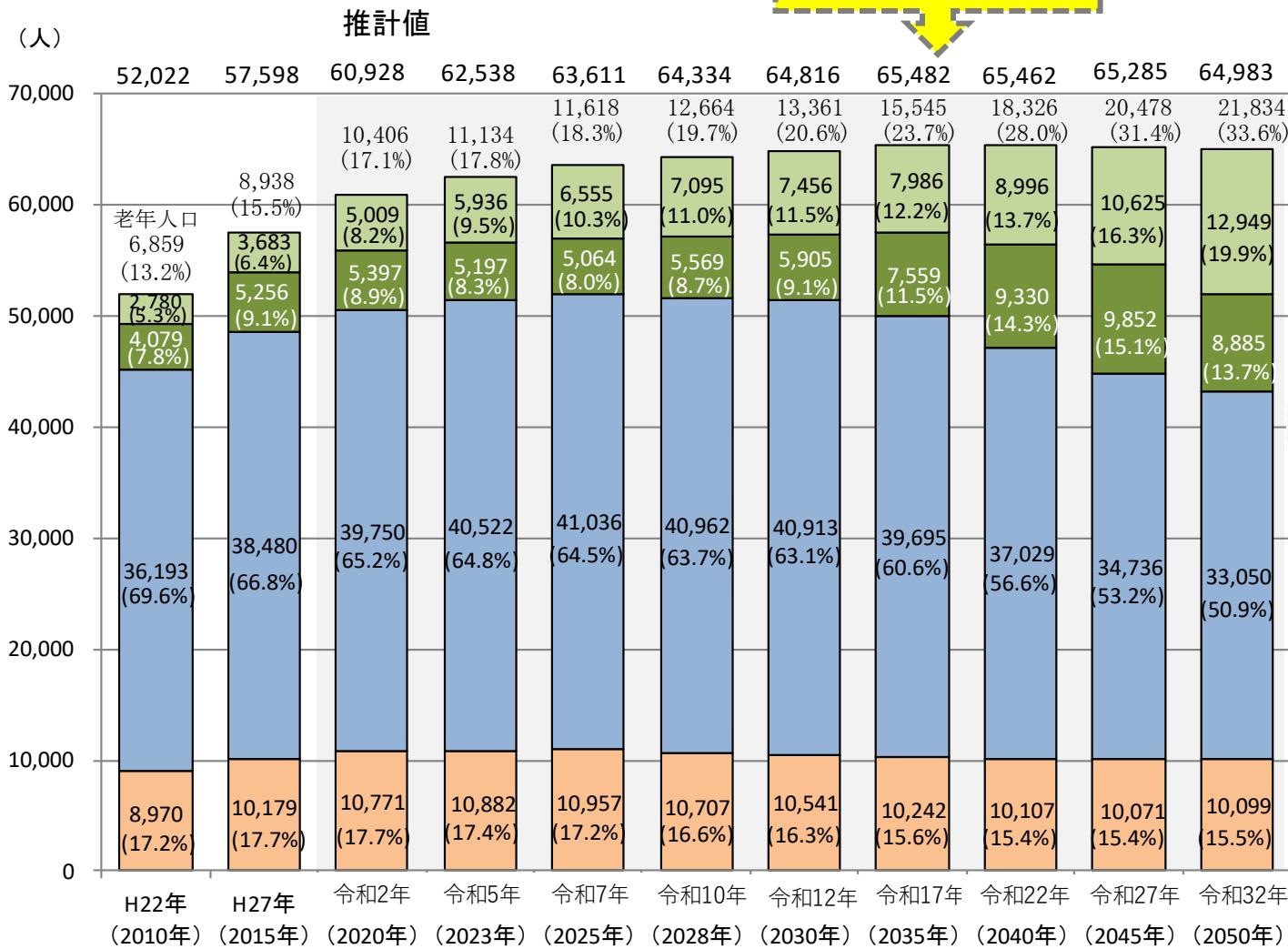
1-1 長久手市の概要②（特徴）



1-1 本市の現状と課題①（高齢化）

【年齢3区分別人口推計（推定）】

人口のピーク



2020年→2050年

老人人口
1万人→2.2万人
17%→34%

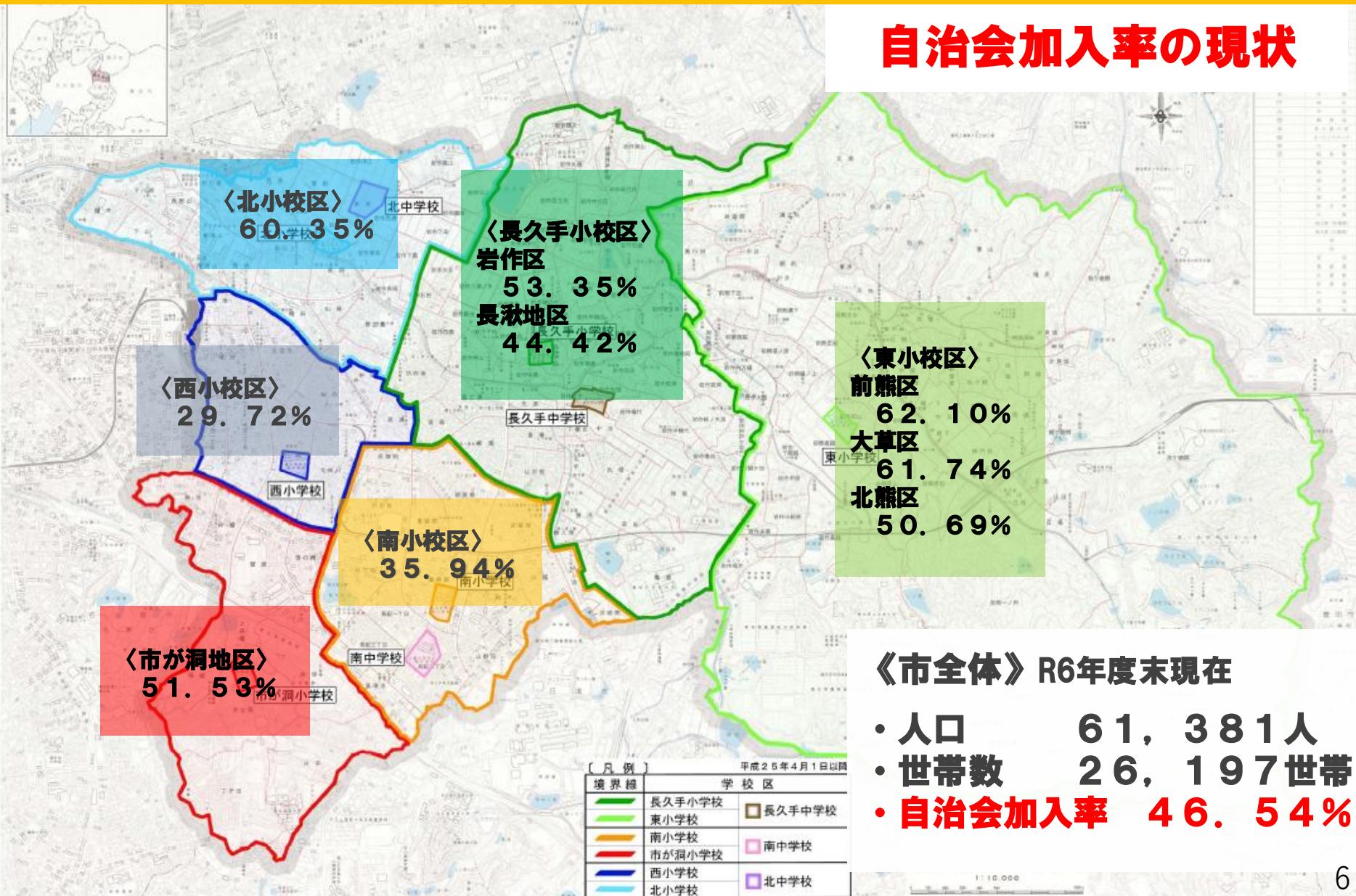
老人人口の割合が
約2倍となる！

生産年齢人口
4万人→3.3万人
65%→51%

年少人口
1万人→1万人
18%→16%

1-1 本市の現状と課題②

自治会加入率の現状



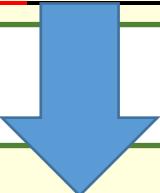
1-1 本市の現状と課題まとめ

課題

- 名古屋市のベッドタウンとして、人口増加が続いている、エリア毎の区画整理・宅地開発が進む。
→都市のニュータウンが面している危機が潜在的に存在
- 自治会加入率50%未満、地域のつながりが希薄化している
- 2045年には、75才以上の高齢者が現在から約2倍に増加する見込み→急速に高齢化する上、家族間のつながり薄い

行政や制度だけでは限界…

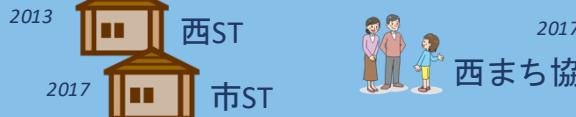
これから

- 
- 地域づくり・まちづくりの活動で変化が見られ始めるまでに10年かかる
 - 今から、①市民の困りごとや希望を身近な地域で受け止め、つながりを作り、②地域の課題は地域で解決できる取り組みを③市全体で始めていく必要がある。

1-2 地域共生推進課ができるまで

2011年

「市民主体のまちづくり」



悩みごと相談室を新設

2018年

「市民主体のまち」の実現に向け総合計画・みどり条例



旧・悩みごと相談室に地域づくり担当（地域共生担当）を配置



2020年

重層事業の実施に向け、悩みごと相談室、福祉課、長寿課を中心に検討開始



市長直轄組織「地域共生推進課」を新設
重層的支援体制整備事業 開始

※ ST...地域共生ステーション
まち協...まちづくり協議会

2024年

「地域共生推進課」「たつせがある課（地域協働）」を合体
くらし文化部「地域共生推進課」

地域福祉業務を政策的に推進するため新設
福祉部「福祉政策課」

の市政スタート（小学校単位のまちづくり）

厚労省「地域共生社会の実現に向けた
包括的支援体制構築事業
(モデル事業)」活用開始

みんなでつくるまち条例

多機関協働相談支援包括化推進事業に関する情報共有の場（推進協議会）設置

改正社会福祉法内に
重層事業を創設

1-2 重層的支援体制整備事業に取り組む

重層的支援体制整備事業に取り組む意義

一人ひとりに役割と居場所のある地域共生社会を実現するために、重層事業を中心として、庁内外の関係者や地域、公民連携体制を構築し、以下の取り組みを一体的に推進

1 覚悟を持った寄り添い支援体制の構築

相談支援



2 多様な社会参加の機会の創出

参加支援

3 誰でも活躍できる地域づくり

地域づくり

2 重層的支援体制整備事業って？

理念

地域福祉の推進
地域共生社会の実現

方向性

包括的支援体制の構築

(多様な主体が協力し、課題解決に取り組む)

行政

市民

社協等の民間団体

方法

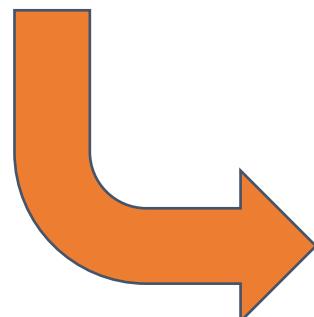
重層的支援体制整備事業の実施
(すべての人のための、3つの支援を届ける)

相談支援

参加支援

地域づくり
支援

府内連携会議
プロジェクト
の取組



制度
福祉

相談
支援

地域
福祉

参加
支援

地域
づくり

まちづくり

福祉サイドからのアプローチ

まちづくりサイドからのアプローチ

2 複雑化・複合化した課題の増加

課題が多く、単独の支援では対応が難しい

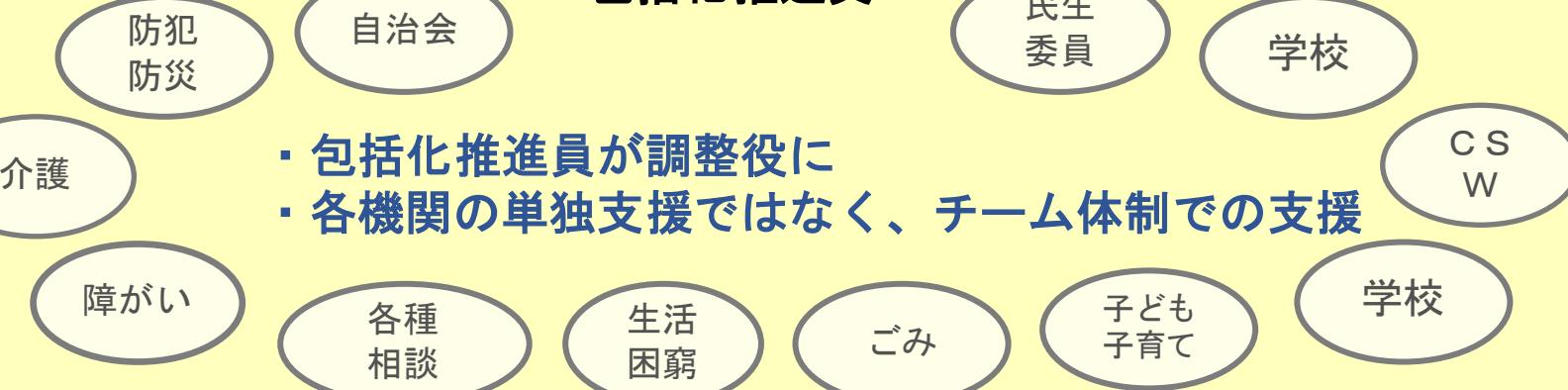


制度で解決出来るものと出来ないものが混在

チーム支援

包括化推進員

支援機関の役割分担や支援の方向性を決める



- ・包括化推進員が調整役に
- ・各機関の単独支援ではなく、チーム体制での支援

※各制度や、関わる人は毎回変わる

2 具体的な取り組み例

家がゴミであふれている高齢者への支援

- ・住宅供給公社（県営住宅）からの退去通告
- ・関係者協力し合い、ごみの撤去
- ・生活状況の改善に向けた支援
- ・情報収集、情報精査
- ・支援会議実施
→課題の優先順位化
- 自宅の清掃、ごみの搬出
- 生活環境の改善、伴走支援継続中

関係者

- ・ケアマネジャー（困り感）
- ・ヘルパー
- ・CSW
- ・包括
- ・住宅供給公社
- ・自治会
- ・地域共生推進課
- ・長寿課
- ・環境課
- ・本人の親族

下校時の見守り体制

- ・交通指導員の高齢化（なり手不足）
- ・子の親の共働き（ボランティア不足）
- ・民生委員の見守りの限界
- ・学校からの相談
- ・地域貢献を希望する企業からの話
- ・地域共生担当職員が別のタイミングで出た話をうまくマッチング

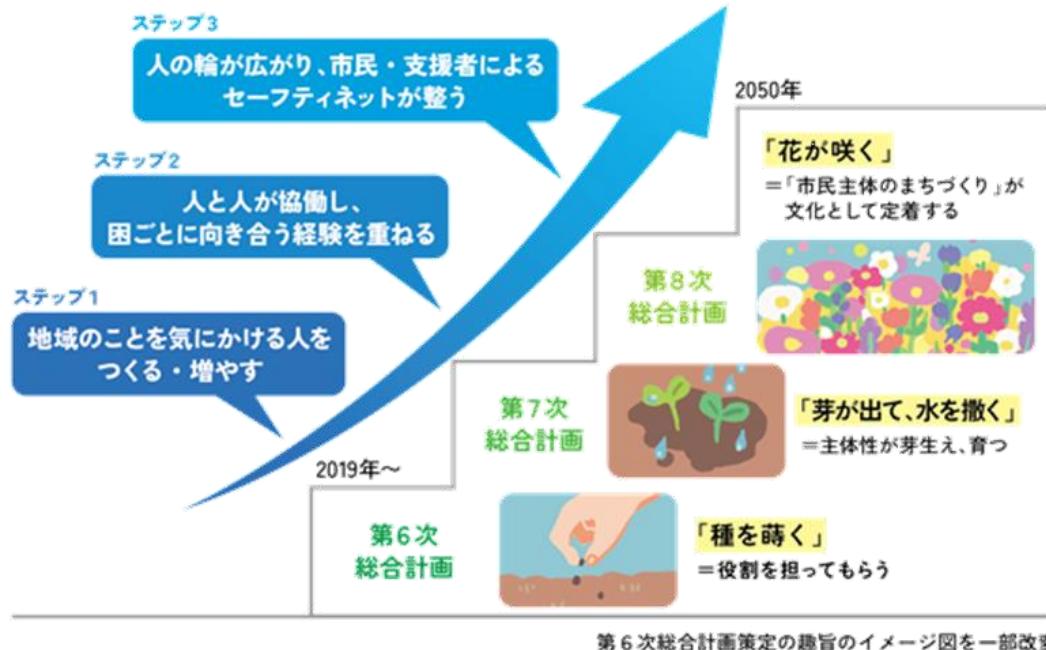
関係者

- ・小学校（困り感）
- ・交通指導員
- ・民生委員
- ・企業
- ・地域共生推進課
- ・教育委員会

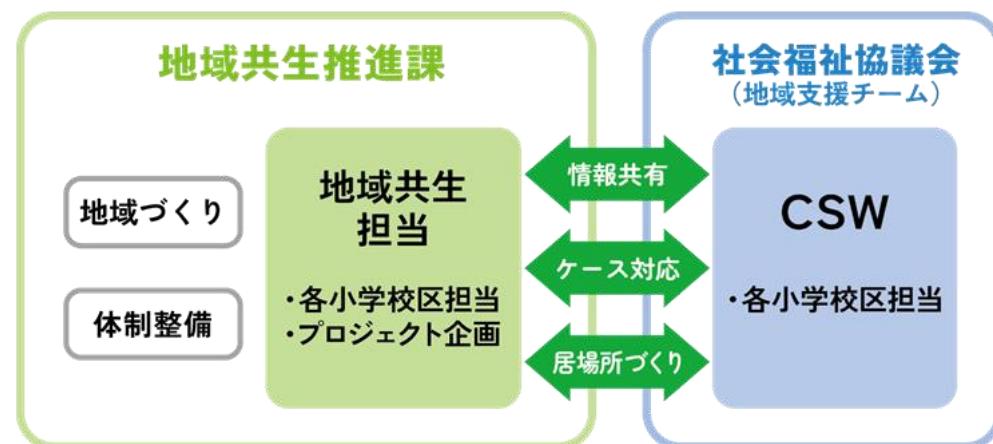
普段から関わっていることで、困った時にすぐ繋げられる
(思い出せる)

2 地域とのつながりが大事

重層事業のステップ



地域との関わりが欠かせない
⇒ 「**地域づくり**を**主体**に



3 MEGURU-BIO (メタオくん)

2022

きっかけ

中学校3年生に、体験型社会学習プログラムキット「エコシステム俱楽部」(メタンくん)の提供を受け、家庭科での循環型社会を考える実践的授業の中で、身近な資源から循環プロセスを学び、資源の新たな可能性に気づき、地域での未利用資源の活用方法を提案するなど、視野の広い学びを得た。



こうした子どもたちの実体験に基づく学びが、
教育と地域づくりの双方に良い効果をもたらすのでは……？



小学校の校庭にMEGRU-BIOを設置
することを決定
→実証期間とし、3課が連携して活用、効果検証

①教育総務課

環境学習の教材として活用、地域学校協働本部の強化

②たつせがある課

メタオくんによる交流で小学校区の住民自治・地域自治組織の活性化

③地域共生推進課

メタオくんによる交流をきっかけとした地域福祉の推進



前市長：吉田一平
14

3 MEGURU-BIO (メタオくん)

2023～
設置
検証

●学校で使い始めて分かったこと

- ・残しても良いという風潮は良くない
 - ・授業としての活用は難しい…
 - ・保護者の活用も難しい…
 - ・地域の関わりも難しい…



- ・市職員が細々と活用
 - ・市職員／地域の方（民生委員など）による生ごみの提供・体験・液肥持ち帰り

● 2年使ってみて……

- ・小学生のプロジェクトチームが発足
 - ・中学生（南中）と小学生（長小）との交流

●小学校が大規模修繕工事に入ることに……



●エコハウス移設が決定

- ・資源循環の拠点、装置との親和性高い
 - ・交流を通じ、運用に関わる人材の発掘を期待
 - ・プロジェクトチーム等の継続的な関わりを期待



2025.3.24 「まざって長久手フェスタ」

循環と共生がテーマ

移設お披露目セレモニー/セミナー/WSなど

3 MEGURU-BIO (メタオくん)

2025
移設

●エコハウスでの運用体制

- ・エコハウスを委託管理するNPOが週2日見守り
→使い方を教えてくれたり、困った時に相談に乗ってくれる
- ・使い方を知る「モニター」が使いたい人に使い方を教える
→徐々に使う人を増やす取り組み

●「まざってエコ」さんとの関わり

- ・月1回のイベント「エサやり体験会」
【春～夏】ポップコーンを作ろう！
→液肥でトウモロコシを育て
ガスでポップコーン作り
- 【秋～冬】おでんを作って食べよう！
→液肥で大根を育て
ガスでおでん作り



子どもと一緒に体験する
来た人同士で教え合う

⇒地域の人たちが繋がり始めている



4 これまでに見えてきたこと

- ▶ **困りごとを解決するのは「その人」** (選択するのは、その当事者)
解決するための"答え"を用意しない。その人の生きる"力"を奪わない。
- ▶ **本人だけでなく、世帯全体のくらしに目を向ける**
解決のカギは、その人のくらしの中にある
目に見えることだけでなく他に潜んでいることも「想像」してみる
- ▶ **制度だけでは、解決できないこともある**
困り事の受け止めも解決も、専門機関などの制度だけでは解決できないことがある
- ▶ **関わる人は、専門家でなくてもいい**
どの課・どの立場の人であっても、それぞれに得意なことがある
地域の人であっても「小さくても良ければ何かできるかも」
誰もが支援者になれるし、支援される側にもなる
- ▶ **普段から関係性を構築する**
人と人、人とモノ、人と会社、人と自然...なんでもつながってみる
- ▶ **市だけでなく、本人も地域とつながる機会が必要**
支援を待つだけでなく、自分から誰かと関わりに行く



誰もが何かと関わりながら生活している



ご清聴
ありがとうございました

